

埼玉県における性器クラミジア抗体検査の状況 (平成 28 年度)

大島まり子 長谷川紀美子 山本徳栄 青木敦子

Performance of *Chlamydia trachomatis* serological examination in Saitama Prefecture
(April 2016- March 2017)

Mariko Ohshima, Kimiko Hasegawa, Norishige Yamamoto and Atsuko Aoki

はじめに

約2倍であった。

性器クラミジア（以下、クラミジア）感染症は、*Chlamydia trachomatis*を原因とする感染症で、感染症法による五類感染症として定点からの報告が義務付けられている^{1, 2)}。本県では「埼玉県エイズ及びその他の性感染症等対策要綱」に基づき、保健所での検査受付、及び、当所での抗体検査を実施している。今回は、平成28年度におけるクラミジア抗体検査の実施状況を報告する。

対象及び方法

- 1 対象期間：平成 28 年 4 月～平成 29 年 3 月
- 2 対象者：保健所で実施する「埼玉県エイズ及びその他の性感症等対策要綱」による相談・検査受検者のうち、クラミジア抗体検査を希望した者
- 3 検査方法：血清を用いた、ELISA 法（ヒタザイム クラミジア：日立化成工業）による IgA 及び IgG 抗体の測定。

結果判定は、各々の抗体に対する陽性及び陰性対照血清の測定値から算出するカットオフインデックスにより行い、IgA、IgG のいずれか、または、両方が陽性的場合に陽性検体とした。

表1 年代別・男女別受検者数

(平成28年4月～平成29年3月)

年齢(歳)	性別			計(%)
	男性	女性	不明	
17～19	1	11		12 (1.7)
20～29	108	108		216 (30.7)
30～39	139	62		201 (28.5)
40～49	139	47	1	187 (26.6)
50～59	42	8		50 (7.1)
60～69	24	4		28 (4.0)
70～79	6	1		7 (1.0)
80～	1	0		1 (0.1)
不明	2	0		2 (0.3)
合計	462(65.1)	241(34.2)	1(0.2)	704 (100)

抗体別・男女別の検査結果を表2に示した。抗体陽性者は、84名(11.9%)であった。男女別陽性率は、男性9.1%(42/462)、女性17.4%(42/241)で、女性が高かった。抗体別陽性は、IgA陽性が4.1%、IgA・IgG陽性が3.4%、IgG陽性が4.4%であった。抗体及び男女別では、IgA陽性は男性、女性ともに4.1%、IgA・IgG陽性は男性2.0%、女性6.2%、IgG陽性は男性3.0%、女性7.1%と、IgA・IgG及びIgG抗体について女性の陽性率が男性より高かった。

結果及び考察

年代別・男女別の受検者数を表1に示した。受検者総数は、704名(性別不明1名、年齢不明2名を含む)であり、受検者の年齢は17歳から87歳であった。

受検者数が多かったのは、20歳代の216名(30.7%)、30歳代の201名(28.5%)及び40歳代の187名(26.6%)であり、これらを合わせると全受検者の85.8%を占めていた。さらに、20歳代の受検者は男性・女性同数であり、17～19歳の受検者は男性1名に対し女性が11名と女性が多かったが、他の年代では男性が多かった。全体では、男性46名(6.5%)、女性241名(34.2%)で、男性は女性の

表2 抗体別・男女別検査結果

(平成28年4月～平成29年3月)

抗体別	男性 (%)	女性 (%)	不明 (%)	合計 (%)
IgA陽性	19 (4.1)	10 (4.1)		29 (4.1)
IgA・IgG陽性	9 (2.0)	15 (6.2)		24 (3.4)
IgG陽性	14 (3.0)	17 (7.1)		31 (4.4)
陽性小計	42 (9.1)	42 (17.4)		84 (11.9)
判定保留	12 (2.6)	14 (5.8)		26 (3.7)
陰性	408 (88.3)	185 (76.8)	1 (100)	594 (84.4)
合計	462 (100)	241 (100)	1 (100)	704 (100)

年代別抗体陽性数を表3に示した。

年代別陽性率は、1名のみの受検者が陽性であった80歳代を除けば、10歳代の25.0%、70歳代の14.3%、40歳代の12.8%、50歳代が12.0%の順で陽性率が高く、最も低い20歳代が11.6%であった。

表3 年代別抗体陽性数
(平成28年4月～平成29年3月)

年齢(歳)	受検者数	抗体陽性数	陽性率(%)
17～19	12	3	25.0
20～29	216	25	11.6
30～39	201	21	10.4
40～49	187	24	12.8
50～59	50	6	12.0
60～69	28	3	10.7
70～79	7	1	14.3
80～	1	1	100
不明	2	0	0
全体	704	84	11.9

埼玉県における平成15年度からの受検者数と陽性率の変動を図1に示した。受検者数は、平成19年度に急増した後は平成22年度まで緩やかに減少し、それ以降は650名前後を推移し現在に至っている。また陽性率は、増減はあるものの15%前後を推移していた³⁾が、27年度に11.5%に減少し、28年度も11.9%と横ばいであった。

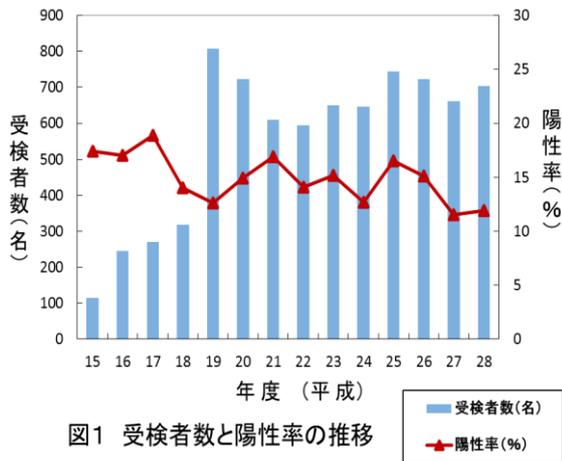


図1 受検者数と陽性率の推移

厚生労働省が公表している平成12年からの性感染症報告数の年次推移を図2に示した。

平成28年のクラミジア感染症報告数は、24,396名であり、ピークであった平成14年(43,766名)に比べ約半数となった。平成21年以降、穏やかな減少が続いているが、性感染症定点報告対象疾患の総報告数における割合は、全国で51.3%⁴⁾、埼玉県で55.6%⁵⁾を占める最も多い性感染症である²⁾。

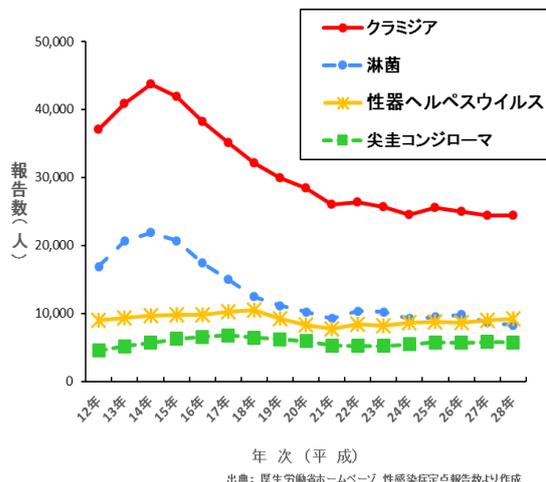


図2 性感染症報告数の年次推移

さらに、クラミジア感染症は、炎症症状が軽度であり、感染を自覚できにくいため、医療機関への受診をおこたり長期間感染が持続することで、感染源となってしまう場合が多い²⁾。そのため感染者治療にあたっては、パートナーのクラミジア感染について検索し、パートナーとの同時治療を進めていくべきである。今後とも、感染源の早期発見に有効な検査を進めていく必要がある。

文献

- 1) 厚生労働省：性器クラミジア感染症。
<http://www.mhlw.go.jp/bunya/kenkou/kekkaku-kansen/shou11/01-05-31.html>
- 2) 疾患別診断と治療 ガイドライン 2016：性器クラミジア感染症. 日本性感染症学会誌, 27, 59-63, 2016.
- 3) 大島まり子, 長谷川紀美子, 山本徳栄 他:埼玉県における性器クラミジア抗体検査の状況(平成27年度). 埼玉県衛生研究所報, 50, 101-102. 2016.
- 4) 厚生労働省：性感染症報告数。
<http://www.mhlw.go.jp/topics/2005/04/tp0411-1.html>
- 5) 埼玉県衛生研究所感染症情報センター：感染症発生情報 月報. 2017年4月号。
<http://www.pref.saitama.lg.jp/bo714/surveillahce>